

# 私の経営

菌床栽培で生シイタケを年間約25ト生産する徳島市の川人泰博さん(69)は、菌床の袋の上面だけからシイタケを発生させる上面栽培で、高品質で大型のシイタケを出荷する。県のGAP(農業生産工程管理)を導入し、安全・安心を前面に打ち出したブランド化に取り組み。47人が加入するJA徳島市眉山支所椎茸(しいたけ)部会の部長を務め、地域のシイタケ生産をけん引する。

(松崎加那絵)

部会は全国に先駆け、冬場の原木栽培から周年出荷できる菌床栽培に切り替え、菌床シイタケのトップ産地となった。JAに呼び掛け、シイタケ菌床供給センターとバックセンターも造り、規模拡大してきた。部会は2009年度に第39回日本農業賞の集団組織の部で大賞を受賞した。

川人さんは、年間3万5000〜4万個の菌床でシイタケを生産し、全量をJAに出荷。品種は、高品質で大型のシイタケが取りやすい「北研607号」を中心に、冬場は「北研705

## 徳島市 川人泰博さん(69) 菌床シイタケ



高品質のシイタケ生産を徹底し、地域をけん引する川人さん(徳島市で)

# 上面栽培で高品質化

号」も組み合わせる。シイタケを出荷するため、上の全面から発生させる手法タケの他に、水稲も4畝で面積を導入する。菌床袋に比べ、高品質の上位等級の上部を開け、上面だけのシイタケが発生しやすい。川人栽培する。高品質で大型の新鮮なシイタケから発生させる手法だ。通常、管理もしやすい。川人



### ◇経営概況

- 労働力＝本人、妻、娘と従業員1人
- 粗収益＝約250万円

さんは「秀品率は夏場は落ちるが、おむね6割程度。良品取りで、単価も県でナンバーワンを自負している」と強調する。

ハウス7棟のうち、4棟が遮熱効果の高いガルバリウム鋼板を外壁に導入したハウスだ。4棟には内側に厚さ30mmの断熱材が入り、ヒートポンプ式の冷暖房との併用で省エネに取り組み

む。「ビニールハウスと比べて冷暖房費は半減できた。温度も保ちやすい」という。導入費用は機材込みで1棟当たり1000万円ほどと高いが、耐久性が高く、長期間でのコスト削減につながる。◇◇

環境への配慮も徹底する。虫害対策は、熱湯消毒機でシイタケ菌の活性に影響を及ぼさない温度で菌床を消毒。誘虫灯も活用し、化学合成農薬は使用しない。部会は12年に、県が進めるGAPの「とくしま安

## 省エネハウス導入／新鮮・安全前面に

(あんあん)農産物認証制度」の認証を取得した。生産履歴の記帳の他、東京電力福島第一原子力発電所の事故以降は、菌床の原材料や水のセシウム検査も徹底する。「眉山ブランド」として、品質や新鮮さと、GAPによる安全・安心の裏付けを前面に打ち出し、消費者にアピールする。◇◇

最近の温暖化による猛暑や、円安に伴う原油の高騰など、生産を取り巻く環境は厳しくなっている。さらに、四国電力が7月からの電気料金値上げを申請した。原発事故以降は、全国的なこの風評被害もある。川人さんは部長として、「戦う強い産地として、前向きに対応していきたい。新鮮で安全・安心なシイタケを、部会内でレベル差のないように生産し販売していく」と強調する。

川人さんは「将来的には孫に継いでほしい。そのため、今の規模と、高品質のシイタケ生産を続けていく。地域の担い手の育成や、部会の維持にも対応していきたい」と考えている。